MOTTAINAIキャンペーン

温暖化対策 止めないで

地球温暖化対策に否定的な米トランプ政権の発足で、2016年11月に発効したパリ協定の実効性に暗雲が漂い始めている。国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）にも参加した環境活動家でブラジルの元環境相、マリナ・シルバさん(58)に協定実現に向けた課題やMOTTAINAIキャンペーンへの期待などについて書面で聞いた。【七井辰男、山口昭】

所属する政党主催のイベントで講演するマリナ・シルバさん＝ブラジルのサンルイス市で2016年6月、レオ・カブラル氏撮影

シルバ・ブラジル元環境相 五輪・パラでアピールを

——地球温暖化対策の新しい国際的な取り組みを定めたパリ協定が昨年11月発効しました。その意義と課題は。

◆COP21で採択後、1年で発効したのは朗報だが、気候問題の緊急性を考えれば、まだ物足りない。協定は各国の自主目標で成り立っており、改善していく必要がある。各国が目標を履行し、それ以上の成果を目指すために、検証メカニズムを導入すべきだ。

——米国次期大統領のトランプ氏は、パリ協定に否定的なコメントをしています。

◆彼の発言を憂慮している。米国はこれまで民主主義やグローバルな連帯を擁護してきたが、これからの数年間、最大の試練に直面すると思う。米国民は、オバマ政権下で気候変動やその他の問題で見られた進歩が後退することを阻止しなくてはならない。それは世界中の人々のためでもある。

——リオデジャネイロ五輪の開会式は、各国の選手が鉢に種を植え、すばらしい環境保護のメッセージを伝えました。

◆リオ五輪でブラジルは、世界に向けて五輪の意味と重要性、すべての民族が健康で平和的に融合し、感動を与える場であることを示すことができた。外交のプロセスもこのように協力的、友好的であるべきだ。特に気候変動のような地球に関わる重大な議論ではそうあってほしい。

——東京都の小池百合子知事は、2020年の東京五輪・パラリンピックで「もったいない」を新たなコンセプトに掲げています。リオの施設を視察し、有効活用に感銘を受けたようです。

◆私は、五輪・パラリンピックが社会の最善の価値観を強調する良い機会であるという小池知事の考えに100％同意する。その中でも、「もったいない」という言葉が表す考えは、私たちが世界中で実践すべきものだ。

深刻な危機にひんしている地球の気候や環境を考えれば、天然資源を大切に利用することを緊急に実行しなければならない。

マリナ・シルバ氏

1958年、ブラジルのアマゾン奥地でゴム採取労働者の貧困家庭に生まれた。16歳で初めて読み書きを学ぶ。重金属中毒に苦しみながら、大卒後に政治運動や環境保護活動に取り組み、36歳で同国史上最年少の上院議員に就任。環境相時代は伐採率を6割削減し、数多くの国際的環境賞を受賞した。2015年10月に初来日。

購入型クラウドファンディング

インターネットで広く資金を集め、地域の特産品の商品化や新規プロジェクトを支援する購入型クラウドファンディング「MOTTAINAIもっと」が好評だ。昨年末から今年1月にインターネットサイト（https://mottainai-motto.jp/）で募集を始める主なプロジェクトを紹介する。

会津喜多方グローバル倶楽部のメンバー。左から3人目が松崎会長

喜多方ラーメン 世界へ

若手経営者ら 輸出用あっさりスープ開発

「蔵とラーメンの街」で有名な福島県喜多方市。100を超える店がしのぎを削るラーメン激戦区だが、国内はもちろん、海外にも熱い視線を送っているのが、若手経営者の組織「会津喜多方グローバル倶楽部」だ。

世界では空前のラーメンブームだが、主流は博多のとんこつ味。喜多方ラーメンは、しょうゆ味の透明な豚骨スープが基本で、あっさりした味わいが特徴だ。健康志向が強まる市場では、むしろ「あっさり」が勝機につながるのでは——。そんな思いから2年の試行錯誤の末に開発したのが、輸出用の喜多方ラーメン「一番星麺」だ。

油分は標準的な喜多方ラーメンの5分の1に抑え、麺もノンフライにしてカロリーを半分にした。スープは各国の輸入規制が厳しい肉エキスを少なめにし、しょうゆと相性が良く、深いうまみが出る、しじみだし汁を使った。

輸出の最初のターゲットは、東日本大震災の被災地からの輸入規制を最初に解除したタイ。2015年9月にバンコクでのジェトロ主催の「日本産農水産物・食品輸出商談会」に参加。好評を受けてさらに改良を重ね、同12月にバンコクのデパートで販売プロモーションにこぎつけた。

コストよりも「おいしさ優先」で開発したため、一番星麺のタイでの販売価格は1食138バーツ（約470円）。客からは「とてもおいしい」との声が相次ぎ、買い物カゴにポンポン入れる人も。大きな手ごたえを感じた。

同倶楽部は製菓、醸造、製麺など次世代を担う経営者で構成され、生産から販売まで一貫して事業展開できるのが強み。「MOTTAINAIもっと」で得た資金を活用し、一層のコスト削減や商品開発、販売に役立てたい考えだ。豆菓子の専門店を経営する会長の松崎健太郎さん(41)は「世界90カ国に喜多方ラーメンを輸出するのが夢。これを突破口に地場産の日本酒やお菓子、調味料などを国内外にPRしていきたい」と抱負を語る。【七井辰男】

◇目標額 51万7000円
特典例 5000円で一番星麺6袋と倶楽部メンバーの写真つきお礼メッセージなど。

木の感触 一生の宝

福島「クラフト夢現」動物パズル製作

クラフト夢現の工場でアイデアを練る渡辺信司社長（右から2人目）、幸喜工場長（同3人目）、「デザインノ風」の松本弘志代表（左端）

木製雑貨で生活や仕事に潤いを——。福島県いわき市の「クラフト夢現」が新しい動物パズルの製作に取り組む。震災を機に帰郷したデザイナーと協力し、「未来を担う子どもの成長のお役に立てば」と張り切っている。

同社は英国車向けに整備や修理を行うサービス会社のいわき工場として、2000年から木製パネルの製造を開始した。しかし、会社撤退に伴って独立を勧められ、「工場の機材と在庫の高級木材、マホガニーを活用しないのはもったいない」と、主にデザインと営業を担当する社長、渡辺信司さん(60)と工場長の幸喜さん(66)兄弟が設立した。

以来二人三脚で、マホガニーの優美な木目と光沢を生かした製品を手がけ、漆装のパソコン用キーボードは、県主催の「うつくしまものづくり大賞」のクリエイティブ賞を受賞した。

木製液晶ディスプレーは、竹野内豊さん主演のドラマ「素敵な選TAXI」で、16年3月の東日本大震災5年のNHK特番では、いわき市の市魚メヒカリをデザインした写真スタンドが使われた。

動物パズルは、小学校の同窓会で「孫のために作ってほしい」と頼まれたのがきっかけ。いわき信用組合の紹介で「デザインノ風」代表の松本弘志さん(64)がチームに加わった。

松本さんはモーターショーのブースや日本橋三越本店で開かれた「吉永小百合展 五つの扉」の会場デザインを手がけるなど、東京で空間デザイナーとして活躍していた。しかし震災で実家の旧宅が全壊したため、「89歳の母親を1人にしておけない」とUターン。いわき明星大の美術部、コミックアート部の学生と一緒に市内の直売所の壁面に野菜畑の絵を描くなど、若手を指導する機会を増やした。

信司さん、松本さんらは「木の手ざわりとともに子どもの頃の思い出がよみがえるようなパズルになれば」とアイデアを練っている。【山口昭】

◇目標額 20万円
特典例 支援額5000円でゾウさんテープカッター、8000円で大理石木製マウスパッドなど＝1月中旬にサイトで募集予定

「伝統絶やすの、もったいない」

廃材活用 三線工房

沖縄・伊江島

「よんなー三線工房」で三線を演奏する船橋美和子さん

沖縄県・伊江島に島唯一の三線（さんしん）の販売・修理店「よんなー三線工房」がオープンした。店は倉庫を廃材やリサイクル品を活用して明るく改装、「島に伝わる民謡の伝統を絶やすのは、もったいない」という店主、船橋美和子さん(28)の思いが島内外の民謡ファンを引き寄せている。

伊江島は真冬でも海風がやさしい。フェリーが発着する伊江港から歩いて15分。島のシンボル城山（ぐすくやま）と三線をロゴマークにした看板の隣の青いドアを開けると、船橋さんが笑顔で迎えてくれた。

船橋さんは大阪出身。大学時代に唄三線の響きに魅せられ、アルバイトをしながら唄者（うたしゃ）（歌い手）を目指した。6年前には島に移住、師匠について本格的な修業を始めた。ところが2年前、声が突然出なくなった。喉にできた病気のせいだった。「なんで私が……」と目の前が真っ暗になった。

幸い手術は成功したが、高音は出にくくなった。病院にいる間も、島民の家々に置き去りになった三線が脳裏を離れなかった。「宝が眠っている。もったいない」。「背中を押されるように」三線職人を目指し、店を開く決意を固めた。

小学校から譲り受けた椅子、不要になったガラス窓、サッシなどを使い、パートナーと一緒にのんびり手作りして2年かけて店舗を完成させ、昨年8月にオープンした。稽古（けいこ）が入れば休業。ゆったりとした時間の流れと三線の響きが客の心身をほぐしてくれる。

当面は皮張り技術の習得が目標だが、唄三線の後継者不足に心を痛める。「若い人々が楽しみながら気軽に学べるネットワーク作りができれば」。夢は広がる。店のサイトはhttps://sanshin-iejima.storeinfo.jp/ 【七井辰男】

さかなクンと環境学ぶ 沖縄

子供たちが楽しみながら環境を大切にする心を学ぶ「MOTTAINAIキッズフェスティバル」（マルハニチロ協賛）が2016年12月17日、沖縄県北中城村のイオンモール沖縄ライカムで開かれた。宮城県で12年に開催されて以来、これまで全国各地のイオンモールで計8回、行われてきたが、沖縄では初めて。

さかなクンによるおさかな講座には200人以上の子どもたちが訪れ、ハリセンボンやイカの絵で名前を当てるクイズで盛り上がった＝写真。また、売り手も買い手も小学生だけでおこなう「キッズフリーマーケット」や小学生理科実験教室、料理教室など多彩なイベントが催された。

防府商工高の生徒 イベント収益寄付

山口県立防府商工高の1年3組の生徒（40人）が子どもたちを対象にしたゲームイベント「もったいないキッズゲームランド」の収益金2万円をMOTTAINAIキャンペーン事務局に寄付した。

ゲームはパネルの的を狙って投球するストラックアウトと輪投げ。生徒たちが段ボールや新聞紙、ペットボトルなどを使って手作りした。景品は、不要になった文具やおもちゃ、ぬいぐるみ、絵本など。全校生徒（713人）や先生に呼びかけて集めた。

イベントには地元の子どもたち延べ200人が参加、ゲーム1回100円の参加料を集め、寄付金にした。生徒たちは、ほかの学校にも同様のイベントを提案、エコの輪を広げていきたいと意気込んでいる。

植林支援へ募金活動

毎日新聞社は、故ワンガリ・マータイさんが創設した植林活動・グリーンベルト運動（GBM）を応援するための募金活動を行っています。伊藤忠商事などとともに展開しているMOTTAINAIキャンペーンのライセンスビジネスの収益の一部もGBMに送られ、ケニア山麓（さんろく）のMOTTAINAIグリーンプロジェクトという植林事業に充てられています。09年4月に始まったプロジェクトでは、すでに381万本の木が植えられています。

募金の郵便振替口座は00180・3・2800、口座名義は（株）毎日新聞社。通信欄に「MOTTAINAIキャンペーン」と明記してください。

キティのコラボボトル

MOTTAINAIキャンペーンは、日本を代表するキャラクター、ハローキティとのコラボ企画第3弾として「コラボデザインマイボトル」を発売した。

デザインは、ケニアの森や動物へのオマージュを込めたデザインのグリーン、富士山や千鳥など日本のモチーフをあしらったレッド、MOTTAINAIのしずくマークとキティちゃんのリボンを水玉模様にしたブルーの3種類＝写真。いずれも容量は500ミリリットル。価格は1800円（税込み）。

マイボトルは軽くて丈夫なうえ、飲み口が広くて洗いやすいため、ギフトやインバウンド（訪日外国人客）向けの需要が増加している。繰り返し使えば、使い捨て容器のゴミを減らすことができ、ゴミを燃やす時に発生する二酸化炭素の排出も抑えることができる。売り上げの一部はワンガリ・マータイさんが創設したケニアの植林活動「グリーンベルト運動」に寄付される。商品の詳細、購入はキャンペーンサイト（http://www.mottainai.info/jp/）へ。

台湾のアート雑誌で特集

MOTTAINAIキャンペーンが台湾のアート雑誌「DPI」2016年10月号に特集された＝写真。カットボードやマイボトル、キッチンマットなど人気商品を6ページにわたって美しい写真入りで紹介、キャンペーンの歴史やコンセプトについても詳しく解説されている。

DPIはイラストレーション全般の情報を取り扱う月刊誌で、1998年創刊。台湾だけでなく海外からも高い評価を受けており、権威ある雑誌大賞の受賞歴もある著名誌。特集では、商品だけでなく、子どもたちだけで売り買いするキッズフリマの写真も掲載されている。

事務局へのインタビュー記事では、提唱者のワンガリ・マータイさんや、10周年記念として15年10月に招いたブラジル・アマゾンの環境保護活動家、マリナ・シルバ元環境相についても触れられ、国内外の森林保護活動に貢献していく方針が紹介されている。